

道路環境影響評価の技術手法
「13. 動物、植物、生態系」の環境保全措置に関する事例集

環境研究部緑化生態研究室

前研究官	園田 陽一
前室長	松江 正彦
研究官	上野 裕介
室 長	栗原 正夫

The Technical Reference on Environment Impact Assessment Technique for Road Project
Examples of Environmental Conservation Measures on 13. Fauna, Flora, and Ecosystem

Environment Department Landscape and Ecology Division

Researcher	Yoichi	SONODA (Former)
Head	Masahiko	MATSUE (Former)
Researcher	Yusuke	UENO
Head	Masao	KURIHARA

概要

本資料は平成 25 年 3 月に作成した道路環境影響評価の技術手法(国総研資料第 714 号) 13. 動物、植物、生態系の参考として、環境保全措置の事例をとりまとめたものである。今回は、平成 19 年 6 月に発行した国総研資料第 393～395 号(別冊)を基に、動物の生息地の分断対策について、環境保全措置並びに事後調査手法に関する新たな事例及び知見の追加を行った。

キーワード: 環境影響評価技術、環境保全措置、道路事業、動物、植物、生態系

Synopsis

This document is the technical reference on Environment Impact Assessment Technique for Road Project about examples of environmental conservation measures on 13. Fauna, Flora, and Ecosystem.

Key Words: EIA, Environmental Conservation Measures, Road Project , Fauna, Flora, Ecosystem

「道路環境影響評価の技術手法」13.「動物」、「植物」、「生態系」の環境保全措置に関する事例集 経緯

改定等の時期	資料番号	執筆等担当者	経緯
平成19年6月	国土技術政策総合研究所資料 第393～395号 (別冊)	国土交通省国土技術政策総合研究所 環境研究部緑化生態研究室 前主任研究官 大塩 俊雄 室長 松江 正彦	別冊事例集の作成
平成25年3月	国土技術政策総合研究所資料 第721号	緑化生態研究室 前研究官 園田 陽一 前室長 松江 正彦 研究官 上野 裕介 室長 栗原 正夫	動物の生息地の分断 対策について更新

○まえがき

道路事業における動物、植物、生態系に関する環境影響評価にあたっては、環境保全措置（回避・低減・代償）の検討と、その環境保全措置の効果に不確実性が伴う場合には、事後調査計画の検討が必要となる。

環境保全措置の計画検討にあたっては、従来から科学的知見や類似事例を参考に実施することとしているが、動物、植物、生態系における科学的知見や類似事例等は全般的に不足しており、現場の担当者は非常に苦慮している実態がある。

そのような状況のもと、平成19年6月に、動物、植物、生態系に対する環境影響評価での環境保全措置および事後調査計画を行う場合の参考となるように、全国的な規模で、Ⅰ．動物の生息地の分断対策、Ⅱ．希少猛禽類の対策、Ⅲ．動物、植物の移植・移設、Ⅳ．動物、植物に対する道路照明設備の配慮、各々について、環境保全措置と事後調査結果の事例を収集し、それらを事例集としてとりまとめた国土技術政策総合研究所資料第393～395号（別冊）が出版された。今回の改定では、特にⅠ．動物の生息地の分断対策について、環境保全措置並びに事後調査手法に関する新たな事例及び知見の追加を行ったものである。

このように本事例集は、動物、植物、生態系における道路環境影響評価を実施する際の参考として代表的な事例をとりまとめたものであり、本事例集を参考として、各現場に適した対策を検討していくことが望まれる。